



ありがとう、ロータリアン！ ⑩ どんな時も笑顔で



米山学友

エマニュエル・ボナヴィタ さん

出身：フランス

奨学期間：2008 - 09

学校名：法政大学大学院

世話クラブ：東京江戸川RC

笑顔がもたらすもの

2008年の経済危機以降、暗い世相が続いていますが、私はそれ以前から何となくそういう兆しを感じていました。論文執筆や卒業後の進路のことも加わり、先の見えない不安や葛藤を抱えていた修士2年目に、私は米山奨学生になるチャンスをいただきました。

世話クラブの東京江戸川ロータリークラブ（RC）の皆さんと面会してすぐに気付いたことは、とにかく笑顔が多いということです。カウンセラーの関口眞司さんをはじめ、ロータリアンのポジティブ思考が前面に表れていて、「こんな世の中だからこそ、私も笑ってポジティブに動けば、周りにいい影響を与えられるんだ」と思えるようになりました。

翻訳を始めたきっかけも、ロータリーの奉仕の精神に影響され、「私ももっと動くべき」と思ったからです。政治学専攻でジャーナリズムに興味があったことから、フランスの月刊時事誌の日本語版編集部にお問い合わせ、無償での手伝いを始めました。奉仕とは一瞬で終わる花火のようなものでなく、こつこつと続けることだ、と思い、修士論文を書きながらも、できるだけ翻訳活動を続けました。

突然の悲報、そして被災地へ

卒業後は帰国して、東映アニメーションのパリ支社で1年弱働き、妻の進学を機にイギリスに移って、フリーランスの翻訳者として仕事を始めました。

やりがいのある仕事に恵まれ、充実した日々を満喫していましたが、2011年3月11日の大震災がその平和を破りました。もう一つの母国を襲った悲劇に、目の前が真っ暗になりました。以前、東北の旅で出会った優しい人々は、世話クラブの皆さんは大丈夫か、と不安でいっぱいでした。まずは東京江戸川RCの事務局にメールし、皆さんの無事を確認。それから「被災地で何かできることはないだろうか」と考え、現地でボランティアを派遣するNGOを見つけ、その年の11月、岩手県の陸前高田市に飛びました。専門知識はなくても手と足を動かせば何かできる。この時も、ロータリアンから教えてもらったポジティブ思考が背中を押してくれました。

被災地でのさまざまな出会い

地震から8か月もたっているのに、現地ではやるべきことがたくさん残っていました。手でがれきを取り除く作業のほか、草刈りやイベントのビラ配り、学習支援など、他のボランティアと共に作業を続けました。

ボランティアは学生や社会人で、年齢もさまざまでした。夕食を取りながらその日のことを話し合い、時には哲学的な議論もしました。被災者と直接話し合う機会もありました。震災当時の出来事を私たちに話すことで、心が癒やされると言う方もいました。

ある日、修復中の家で作業したのですが、そこはなんとロータリアンの家でした。壁だけが残り、中はすべて



震災後に、ボランティア活動を行うため、陸前高田市を訪れたボナヴィタさん（左）

非漢字圏の外国人には習得が特に難しいとされる日本語ですが、フランス人の米山学友、エマニュエル・ボナヴィタさんが書く文章は、知らない人が読めば、日本人が書いたものと疑わないでしょう。ボナヴィタさんは、その語学力を生かし翻訳家として活躍。日本の文化、風土、そして日本人を深く愛し、東日本大震災後はボランティアとして被災地へ。その時の経験や、ロータリーへの感謝、日本への思いを今回、寄稿してくれました。

壊れて住めなくなっていました。その方は笑顔で「一部を回収できたし、壁があるだけまだ恵まれているほうだ」と語りました。私は言葉を失いました。夜、その時の会話を思い出したら、涙がこぼれました。

被災者の皆さんが懸命に生きている姿こそが「人間の見本だ」と思いました。日本にとって、そして世界にとっても、東北の重要性を感じた17日間でした。

遠く日本を離れても

妻の就職を機に、今年1月からインドのニューデリーに移りました。忙しくても仕事の合間を見つけて、できるだけ日本人とは会うようにしています。不況中であらためて日本と日本人の素晴らしさを実感しています。

仕事ではインドに転居後、東日本大震災により地震の残酷さを体験したという日本人ジャーナリストの本の、仏訳共同翻訳という企画に携わり、その売上金を被災地の基金に寄付することにしました。

また、翻訳家として日本の素晴らしいものを紹介することは、私の大事な使命です。最近、建築家出身のアーティストの著作を翻訳しましたが、いつも言葉だけを訳すのではなく、それが「笑顔」の橋渡しになるよう心掛けています。

ロータリアンがくれた笑顔を受け継いで、私も周りに

笑顔を与えられるよう努力を続けます。ご恩は決して忘れません。悲しいことがあっても、笑顔があれば幸せが待っていると信じ、いつかは日本に、もっと恩返ししたいと思っています。



関口真司氏から一言

エマニュエル君はとにかく日本語が堪能で、文章力は当時から、日本人でも舌を巻くほどでした。好青年で、奨学生というより日本人の若者と接しているという気にさせるほど、日本によく溶け込んでいました。卒業後は、仕事が決まったという手紙を一度もらったきりでしたが、今回、翻訳家として活躍していることを知り、うれしい限りです。ロータリーで学んだことも忘れずにいてくれて、何も言うことはありません。また東京に来ることがあれば、いつでも歓迎したいと思います。

ロータリー米山記念奨学会事務局

米山記念奨学事業に関するお問い合わせ・ご意見、または「よねやまだより」についてのご意見を、公益財団法人ロータリー米山記念奨学会まで、ぜひお寄せください。
TEL: 03-3434-8681 FAX: 03-3578-8281
Eメール: mail@rotary-yoneyama.or.jp

米山の親善大使を募集します！ —— 米山学友表彰制度 ——

ロータリー米山記念奨学事業は今年11月、東京ロータリークラブによる「米山基金」設立から60周年を迎えました。これを記念し、日本国内で活躍する米山学友を「ロータリー米山親善大使」と認定し、表彰する制度を新設。選ばれた学友には記念品、親善大使の名刺を贈呈し、約2年間、米山記念奨学事業の魅力を広く伝えていただこうと考えています。皆さまの周りで、「母国と日本の懸け橋になって活躍している」「世界平和に尽力している」など、頑張っている学友がいましたら、ぜひご推薦ください。自薦、他薦は問いません。締め切りは2013年1月末です。詳しくは米山記念奨学会ホームページまで。http://www.rotary-yoneyama.or.jp/



身近にいる、米山親善大使を募集